

「地域の自然を楽しむ 郷土愛を育む 遊び場作り」～里山体験学習～

長野県 松本市立 ^{ことぶき} 寿 小学校
6年 竹澤 響 小澤 春太郎



学校紹介 ●●

寿小学校は、明治6年（1873年）に、松本市南東部に創立発足されました。全校児童970人で、県内でも大きな学校の一つとされています。しかし、住宅地域ばかりでなく、田んぼ、果樹園、麦畑などが広がる地域も学区内にあります。学校と地域の方々との交流が盛んに行われ、野菜や植物の育て方を教えてもらったり、木工を教えてもらったりしながら、楽しく勉強できる学校です。



活動場所 ●●

寿地区の東側にある鉢伏山と、この山から流れる牛伏寺川^{うしふせがわ}は江戸時代より、木材の伐採により大雨が降る度に、土砂崩れをくり返し、地域の人々を困らせてきました。

そこで、鉢伏山内に堤防を築き、その周りに植樹をして森を管理することになりました。

そんな地域の歴史や自然を小学生に知ってほしいと、地域の方が「里山クラブ」を結成し、小学生が活動できるように整備したところが「きずなの森」です。ブランコがあったり、先輩達が植樹した木があったりします。

年1回の「きずなの森フェスティバル」では、金管クラブの発表や手作りバームクーヘンを楽しめるようになっています。



サミットに参加してみても…

今復の夢・希望・活動計画 ●●

「きずなの森」は、森林組合が管理する山の中にあり、学級で行くにもタクシーを使うので、簡単に行ける場所ではありません。しかし、総合的な学習や社会科学習を中心に、学年に応じて1年生の「どんぐり拾い」から始め、6年生で「森林の大切さ」を語れるように、地域の人との交流、体験を大切にして学習していきたいです。また、「きずなの森」は多くの子どもたちが、訪れることができるように計画を立てたいです。

「学校林・遊々の森」全国子どもサミット in 京都 資料

1. 活動テーマ

「地域の自然を楽しみ郷土愛を育む遊び場作り」～里山体験学習～

2. 学校名

長野県松本市立寿小学校

3. 発表者

6年 竹澤響 小澤春太郎

4. 学校の紹介

私たちの寿小学校は、松本市の南にある小学校です。東側には美ヶ原・高ボッチを中心とした山続きがあり、西側には北アルプスがあります。学校の周りには田んぼや麦畑が広がり、近くの山を源とする大小様々な川が流れていて、学校の近くの川ではホタルが見られます。

5. 活動フィールドの様子



鉢伏山

学校の東側にある山。一部が地区の財産区になっていて「きずなの森」と呼ばれています。「里山クラブ」の皆さんが大切に管理している森です。乱伐や山火事によってはげ山になった所を、植林してきた山です。一時は、学校建設のための木を小学生が苗を背負って登ったことがあるそうです。

赤木山

学区内にある山の一部（現在は株式会社 EPSON が管理）を借用させてもらいました。
山の頂上部を拓いた台形の広場があって、50m 四方の中央部は平らな原っぱになっていて、その周りはクヌギなどの雑木林になっています。



赤木山↓

6. 活動の様子



間伐した木を細かくする作業を手伝う

なぜこの山が大切なのかを聞きました。



早速、赤木山にブランコを付けに行きました

廃材を使ってブランコを作りました



7. 今後の活動の夢や希望や活動計画

○「きずなの森」を、里山クラブの方と一緒に大切にしていき、ぼくたちが卒業しても、寿小学校の子どもたちが大切にしていこうにしていきたいです。

○赤木山に遊び場を作り、友だちや小さい子を招待をして、遊びながら「森の楽しさ」や「森の大切さ」を感じてもらえるようにしたいです。

森林環境教育の実践について

1. これまでの実践の成果（実践の効果や子どもの成長、今後の期待など）

森に行った子どもたちは、さらに自分のやりたいことを見つけたり、「率先して活動する姿」「諦めず最後までやり通そうとする姿」「できなかったことができるようになった姿」などの、友達の懸命な姿に気づき、よさを認め合ったりしていた。森で自分のやりたいことを見つけ、どうやったらできるのか考え、協力して活動していくことは、子どもたちが自分自身の幅を広げ、自分にはできないことに着手する、友達のよさを認めることができるともよい教材となった。

今後は、“自分たちが楽しむ”ということ満喫した後に、“だれかのために”という思いを持って、遊び場作りを続けていくことができればいいと思う。

2. 実践の課題（苦労したことや困ったことなど）

5年生の時に、里山体験ということで車と徒歩で1時間30分くらいかけて地域の森にでかけた。この時の楽しさが子どもの中に根付いていたこと、そして、今春の遠足で場所は異なるが山道を歩いたときに木にぶら下がったり坂道を駆け下りてきたりと、存分に山での遊びを堪能した子どもたちは「また遊びに行きたい」と願うようになった。

しかし、歩いていけるような近くには森が見つからず、保護者や地域の方、職員などに聞いては見るが、簡単には見つからない。そこで、昨年の里山体験でお世話になった「さと山くらぶ」の方に相談したところ、公民館長さんとも連絡を取り合って学区にある森を教えて頂いた。以前、その場所は地区の森だったが、15年ほど前から株式会社エブソンが管理するようになっていた。何度も下見を重ね、そのたびにエブソンの方にも一緒に見ていただき、安全面を確認したり、やっても大丈夫な活動やできない活動をすりあわせたりと、時間をかけて子どもたちの動きの見通しを立てた。子どもたちから出された「木を切りたい」「穴を掘りたい」という願いは叶えられなかった。

本当は子どもたちが考えたとおりに進められればよかったのだが、一企業が所有している場所は好き勝手には使えなかった。

3. 課題への対応（工夫したことや課題の解決策など）

担任を始め学校側には専門的な知識や技術がないので、「さと山くらぶ」のみなさんや「寿財産区」のみなさん、公民館長さんなどに力を借りて6～8人くらいのスタッフで行くことができた。

子どもたちが希望したものをなるべく取り入れられるようにと、「ブランコならここでできそうだ」「木は切れないけれど廃材を持ち込んで活動ができそうだ」「落ちている木は使ってよいと許可された」など、専門家の話のおかげでできる活動が増えた。企業側も「地域の子どもたちに地域にある森で遊んでいただけることはとてもうれしいこと」と言っていただき、全面的な協力を得ることができた。

切ったり掘ったりはできなくても、ブランコ作りやターザンロープ遊びなどを行い、子どもたちは満足していた。

4. その他（今後の計画や方向、抱負や希望など）

子どもたちは、「ブランコ」「ターザンロープ」「秘密基地作り」「ハンモック作り」「シーソー作り」「段ボールで斜面を滑る」「木の上で基作り」など様々にやりたい活動を提案してきた。遠いので何度も行って何時間も遊ぶということができないので、何度か森で遊んだら学校にもある太い木を使って遊び場を作る、という方向に向かっていくのではないかなと思う。

自分たちの“オリジナルの遊び場”が完成した後は、低学年などに遊び方や作り方を教えるインストラクター側になってくれればいいかなと思っている。

長野県 松本市立 ことぶき 寿 小学校

ほらっ どすこい山が よんでるよ！

長野県 松本市立 ^{ほんごう}本郷小学校

5年 秋山 夢叶

4年 横田 慎吾

各小学校の取組 ⑥

学校紹介

松本市立本郷小学校は、浅間温泉の中にあります。松本市街にありながら、女鳥羽川^{めとばがわ}の源流を抱き、少し足をのばすと、美鈴湖^{みすずこ}とそのふもとにある里山に行くことができます。全校児童は約400人です。

毎年夏には、浅間温泉旅館の皆さんが、全校児童を温泉に招待してくれる温泉学習があります。また、6年生は奇祭ともいわれる松明祭りに参加するなど、地域の方々との結びつきが深い学習を各学年で行っています。



活動場所

「どすこい山」と名付けたわたしたちの学校林は、学校から歩いて15分程のところにあります。

12年前の卒業生の皆さんが、「失敗なんて怖くない何でもやってみる たくましい子どもになりたい」という願いを込めて「どすこい山」と名付けました。

低学年は、生活科の学習で山と遊んだり、カブトムシを捕りに行ったりしています。高学年になると、地域の里山を守る活動をしている方々と、間伐や下草刈り、山桜の手入れを行い、自然の守り方・付き合い方を教えてもらいます。



サミットに参加してみても...

今復の夢・希望・活動計画

「どすこい山」と、これまで様々なことを学習してきました。

もともと「このどすこい山」との学習が始まったのは、本郷でおこった大きな山火事がきっかけです。大規模な山火事で、丸坊主になってしまった山を、地域の方々を守っていきたいと考えています。これからも、山についてよく学び、理解し、私たちの目を通して気づいたことを、発信していきたいと考えています。

ほらっ どすこい山がよんでるよ！

長野県松本市立本郷小学校

5年 秋山夢叶 4年横田慎吾

どすこい山と遊ぶ



一年生になった時、どすこい山の「もりじい」に、どすこい山で遊びたいよ。っていうお手紙を書いたよ。もりじいって、ほんとにいるのかなって思ったけど、白いおひげの、本物のもりじいに会ったよ。

もりじいから、どすこい山に入ってもいいよっていう印の「森のパスポート」をもらったよ。本郷小の子どもは、みんな、もりじいが大好きだよ。
(一年生生活科)

どすこい山に、動物も来てくれるような森の町があったらいいなってずっと考えていたよ。だから、みんなで森の町を作ったんだ。森にぴったりの町になるように、みんなですごく考えて作ったんだよ。

森を散歩する近所の小さい子から、学校に「かわいいお家があったよ。お母さんとどんぐりでお店屋さんをしたよ。また行きたいな。」ってお手紙が届いたよ。

(2年生生活科)



高学年になるとどすこい山の桜の手入れに行くよ。下草刈りや、つるを切ったりするお仕事だよ。山仕事の後、山の山菜を分けてもらうのが楽しみなんだ！

(5年生総合学習)

どすこい山と学ぶ



森林環境教育の実践について

1. これまでの実践の成果（実践の効果や子どもの成長、今後の期待など）

本郷小学校独自の「年間指導計画」を作成し、全学年を通して、段階的に環境学習を行っている。その中で、学校林と子どもたちを結びつける大切な役割が地域の方々である。

どすこい山（もの）もりじい（ひと）どすこい山での学習内容（こと）に繰り返し出会うことで、子どもたちの心には、「ふるさと本郷の自然を守りたい」という気持ちが育っていく。地域の素材を教材化するのは、並大抵のことではないが、色々な教科を巻き込み、合科的に学習を展開していくことで、子どもたちの学習活動にも広がりや深まり、発展性が出てくる。

2. 実践の課題（苦労したことや困ったことなど）

地域の方々を巻き込んで学習展開していくときに、学習材「どすこい山」とどのように子どもたちを出会わせていくか、どのような学習展開を行っていくか、綿密に打ち合わせようとしている。

同じ学年でも、年度によって子どもたちの実態や、学年経営の方針が異なるため、様々な実践を行っている。

3. 課題への対応（工夫したことや課題の解決策など）

平成22年度の2年生は、生活科の学習として、「どすこい山」に関わる学習を行い、子どもたちの中から生まれた「森の中に森の町をつくろう」という大プロジェクトを、子どもたちも先生も満足感を持って無事終了することが出来た。生活科では、具体的な活動や体験を積み上げていくことがとにかく大事である。簡単に子どもたちの思い通りにならない「森」を題材とすることは、教材研究がとても大変である。反面、思い通りにならないからこそ、子どもたちが何度も繰り返し関わるができる魅力的な題材でもあった。

4. その他（今後の計画や方向、抱負や希望など）

- ・5カ年の「遊々の森」提携が今年度で終わるため、新たな協定を結ぶ。

長野県 松本市立 ほんごう 本郷小学校